



■マクドナルド・アドバンスドインターンシップ参加



12月10日～18日の5日間、2年5組の仲宗根真斗君と喜納玲桃夢さん、2年7組の富着友恵さんの3名が、マクドナルド・アドバンスドインターンシップに参加しました。嘉手納店での実習だけでなく、今後の社会で必要

となる「主体性・思考力・チームで働く力」をテーマとした事前・事後研修が充実しているのが特徴で、事後実習ではディスカッションを行いながら実習を振り返りました。「行動したことに對して自己評価することで、自分自身を知ることができた。」「感じたことや反省すべきことなど自分の考えを書き出すことの大切さを知った。」「学んだことを活かす、そしてさらに学んで活かすという繰り返しこそが大切だ。」などの三者三様の意見が出ました。とても充実したプログラムだったようです。お疲れさまでした。

(進路指導部 理科 川端俊一先生)

■芸術鑑賞会

12/19



伝統組踊保存会の皆さんによる芸術鑑賞会でしたが、二才踊りで1年伊禮凜音さんと3年山内涼加さん、女踊りで3年新垣鈴奈さんも素晴らしい踊りを披露しました。その踊りを観ながら、

岡本太郎著書『沖縄文化論』にある沖縄舞踊は、すべて運動の方向は腰でつける。(中略)手、足、首などが勝手に動くということはありません。(中略)いつでも腰を中止に、からだ全体の対応関係において、微妙なバランスをたもって流れて行く。そのとき全体の線が厳粛に生きる。)を思い出していました。その表現通りの踊り方で感動しました。最後に喜友名朝輝生徒会長から「組踊は、授業で事前学習をしていましたが、実際に感情を所作と音で細かく表現しているところに感動しました」とお礼のあいさつがありました。皆さんも郷土文化に興味関心を持つきっかけになればと思います。



■2学期終業式伝達表彰：おめでとう！！

- 県新人ソフトボール競技 優勝：男子ソフト部、準優勝：女子ソフト部
第9回なににしている大賞優秀賞2年池原秀一郎、佳作2年石嶺杏奈
漢字検定2級合格 2年 久手堅真琳
県高等学校席上揮毫大会 優秀賞 1年新垣璃空、町田彩寧
高等学校書道展 優秀賞 1年新垣璃空
全琉図画作文書道コンクール 絵画部門 佳作 3年桃原音菜
書道 最優秀賞 1年 町田彩寧
優秀賞1年大城エナ、比嘉音寧、比嘉一歌、知花愛、松田彬孝
西川あいり、新垣璃空、照谷咲乃、鈴木菜那美
2年與儀朋美、池原空、西依百花、3年池原立貴
韻文優秀賞 2年嘉数正 創作文優秀賞 2年島本若夏
県高家庭クラブ研究発表大会 優良賞 2年石川姫果
吉本興業×KIFFO動画コンテスト 審査員特別賞 2年比嘉光太郎

■1月の行事

- | | |
|----------------------------------|--|
| 7日(月)3学期始業式・HR役員
認証式、服装容儀指導週間 | 21日(月)センター自己採点 |
| 9日(水)統一LHR(3送会) | 24日(木)卒業テスト① |
| 14日(月)成人の日 | 25日(金)卒業テスト②、第3回英
検 |
| 15日(火)推薦入試受付① | 新人駅伝大会 |
| 16日(水)推薦入試受付② | 26日(土)ベネッセ総合学力記述
1・2年特進必修
第3回英検、新人ラグビー |
| センター直前集会6校時 | - |
| 18日(金)推薦入試面接 | 28日(月)卒業テスト③ |
| 19日(土)大学入試センター① | 30日(水)第3回漢検 |
| 新人ラグビー・サッカー大会 | |
| 20日(日)大学入試センター② | |

- 県高文祭美術・工芸部門 優良賞 2年比嘉光太郎
県新人フェンシング競技女子学校対抗総合優勝
2年金城杏菜、1年塚本アロアモネ、知花美樹
個人戦女子フルーレ 優勝 2年金城杏菜
準優勝1年塚本アロアモネ、3位1年知花美樹
個人戦女子エペ 優勝 2年金城杏菜
準優勝1年塚本アロアモネ、3位1年知花美樹
県高文祭音楽部門合同オーケストラ
全国大会派遣 2年 松田麻央
県アンサンブルコンテスト金管7重奏 銅賞
2年西本義朗、1年比嘉花蓮、山内瑛理、
1年山内侍源、瑞慶覧千咲、照屋咲乃、知花愛
県アンサンブルコンテスト木管7重奏 銀賞
2年知花瞬、喜友名朝輝、新垣杏奈
1年津堅門琉奈、金城美咲、源河真歩、仲村渠玲
第1回ガクアルFESTA高文連軽音楽コンテスト
準優勝 3年上間千愛
2年新垣修、花城伶武、1年幸地優花
1年仲宗根拓斗、1年池原妃仁子

- 剣道 2段 3年源河萌音
毛筆書写技能検定 2級 2年池原空、山内彩名

■本紹介コーナー
著者：日本語の教室
書名：大野晋



本書は、「(質問1)日本語がよく書ける、よく読めるには？」など16の質問に対し、国語学者である著者の回答で構成されている。質問1は、『『東京へ行く』とするか、『東京に行く』とするかで、ずっと迷っている』という作家阿川弘之との会話で始まる。『万葉集』など古い言葉の「へ」と「に」の文例から、「移動・移行の方向のときは『へ』、動作の帰着点をきちんと示したいときには『に』」であると説明。「へ」を使うか「に」を使うかなど「その判断を下す力は、その人がどれだけの文例に出会ったことがあるかという、個々の事例の蓄積の中で養われます。(中略)それには沢山の読書が大切」と続く。やはり「日本語がよく書ける、よく読める」には沢山の読書が必要なのである。また、仮定の表現として「もし雨が降ったら、～」というが、「雨が降る」のは未来のことなのになぜ過去形「た」を使うのか。「古文の表現法では、時に関して現在よりももっと表現法が豊富だった」そうである。幾つかあった表現がその機能は残しながら「た」一つになったことで、「た」が、「純粹の過去にも、現在の確認にも、気づきにも、持続にも」使われるようになったとのこと。「ああ、ここにあった」や「驚いた」の「た」は気づきや感情の持続で、「ご注文はこれでしたよかったですか？」や「来週の会議は水曜日だった？」も過去形ではなく確認の「た」なのである。敗戦が日本語に与えた影響についての質問もある。終戦直後、アメリカから教育使節団が来日した。日本に民主主義を行き渡らせるためには、日本人にきちんと情報を与えなければならない。そのために難しい漢字はやめてローマ字か仮名文字かの表音文字にすべきと勧告。漢字制限など国字改革が行われた。しかし「国字改革は一つの破壊」であり、それによって「日本語能力の低下と日本の文明力の崩壊とが平行して着々と進行している」と著者は怒る。「正確な日本語、的確な日本語、文意の明瞭に分かる日本語を日本人一般がもっともっと心掛けるべき」であるとも。次回も同著者の本を紹介したい。